試練と闘争の2020年

試練と闘争の
2020年

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ110(2021)

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

1．新たな活路を切り開くために・・・・・・・・・5

正面突破戦の路線を示す・・・・・・・・・・・・6

堅忍不抜の意志で・・・・・・・・・・・・・・11

2．思いがけない挑戦・・・・・・・・・・・・・19

「COVID－19」の衝撃・・・・・・・・・・・・20

先制的対応・・・・・・・・・・・・・・・・・23

3．大難を克服した力・・・・・・・・・・・・・31

破壊的な自然災害・・・・・・・・・・・・・・32

熱と情・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

人民の信頼を守りぬいた軍隊・・・・・・・・・43

4．輝かしい総括・・・・・・・・・・・・・・・49

威風堂々たる閲兵式・・・・・・・・・・・・・50

「80日間戦闘」・・・・・・・・・・・・・・・59

はじめに

2020年は人類にとって悪夢のような年であった。

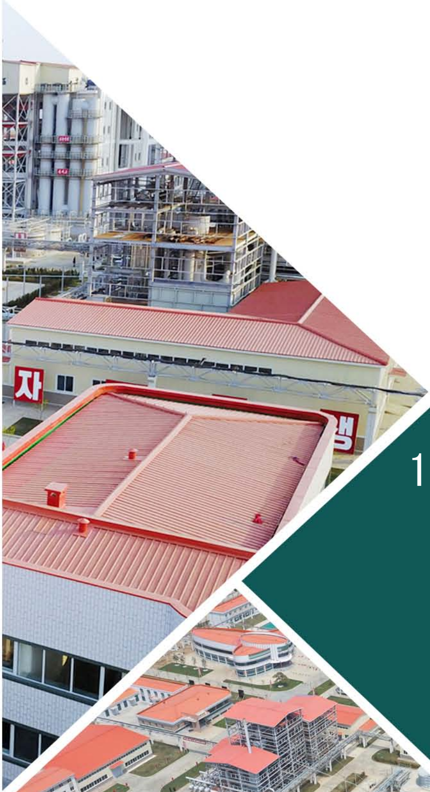
年中持続した世界的な保健危機は社会生活の均衡を破り、人々を不安と恐怖に陥れた。

第2次世界大戦以降、初めてオリンピック競技大会の開催が中断されるという事態まで生じた。

悪性ウイルスが招いた保健危機は、2020年の新たな進軍を開始した朝鮮人民の前途にも大きな困難をつくり出した。そのうえ、打ち続く破壊的な自然災害も想像を絶する試練であった。

しかし、偉大な指導者に導かれる朝鮮人民は、折り重なる難関に屈せず勇敢に闘った。指導者は人民の安寧のために自分の心魂を傾け、人民は為民献身の情に引かれて奮然と立ち上がり、大災害の痕跡をすっかり取り除き、朝鮮労働党創立75周年を革命的祝日として盛大に祝った。

そして、その高揚した勢いで引き続き力強く闘って2020年を立派に締めくくり、朝鮮労働党第8回大会が開かれる2021年を迎えた。



1. 新たな活路を切り開くために

正面突破戦の路線を示す堅忍不抜の意志で

正面突破戦の路線を示す

2019年12月末、平壌（ピョンヤン）では朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会が招集された。

総会では、当面の情勢と革命発展の要求に即して、正面突破戦によって難関を切り抜けていくという革命的路線が打ち出された。

ならば、朝鮮労働党が正面突破戦を決心した理由はどこにあるのか。

2018年4月に行われた朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会では、党中央委員会2013年3月総会が示した経済建設と核武力建設の並進路線の偉大な勝利が誇り高く宣言され、社会主義経済建設に総力を集中するという新たな戦略的路線が提示された。

こうして、朝鮮人民は長期間にわたる敵対勢力の核威嚇を核によって終息させ、社会主義経済建設に総力を集中して富強かつ文化的な社会主義強国を建設するための闘いに邁進することができるようになった。

当時、朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会のニュースは世界的に大きな反響を呼び起こした。

しかし、急速に強化される共和国の威力に恐れをなした敵対勢力は、必死になって朝鮮人民の自主的発展に歯止めをかけようとした。

力をもってしては朝鮮人民を屈服させることができなくなった敵対勢力は、窮余の一策として制裁による孤立圧殺策動を執拗に追求した。その一方、朝鮮人民の根本利益に反する要求を制裁解除の条件として持ち出した。敵対勢力のこうした策動は朝鮮人民に対する我慢できない挑戦であった。

情勢は、朝鮮人民が各方面で内部の力をさらに強化することを求めていた。

そのような環境下で開かれた朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会では、内外の情勢を踏まえた当面の闘争の方向と朝鮮労働党創立75周年を盛大に祝う問題が討議された。

総会の報告では、2019年4月の党中央委員会第7期第4回総会以降8カ月間の闘争が分析・総括された。

報告は、この間は非常に強力な闘争と果敢な前進の連続であったとし、朝鮮労働党がその間常に人民の切実な要求と権益、国家の自主権と安全保障を中心に据えて正確な対内対外政治路線を樹立して堅持し、それを貫徹するために不断に闘ったことについて言及した。

そして、対話と協商の看板を掲げて自分の政治外交的利益

をはかると同時に、制裁を引き続き維持して共和国の力を次第に消耗、弱化させようとするアメリカの本心を暴露した。

もとより朝米会談を、対朝鮮敵視政策を撤回し、朝米関係を改善する用意があるからではなく、時間稼ぎなどしてなんとしても朝鮮人民を政治的、軍事的、経済的に圧殺するための陰険な策動を実現するのに利用しようとするアメリカの二重的行為を糾弾した。

報告は、敵との熾烈な対決は常に自分の力量を強化するための事業を伴い、自分を強くする事業が先行してこそ主動的に勝利を勝ち取ることができるとし、自力強化の見地から見ると、国家管理や経済活動をはじめその他の分野で是正すべき問題が少なくないと指摘した。

また、自力更生、自給自足についてつねづね言っているが、それを実行するためのわれわれの活動は過去の惰性から抜け出していないとし、自立、自強の壮大な偉業を牽引し推進するには不十分な国家管理活動と経済活動など各分野の実状について全面的に分析した。

報告では、こうした分析に基づいて、まず、経済活動体系と秩序を整理するための綱領的な課題が提示された。

経済活動は現実にしっかり足を据えて行い、現実の要求に即して計画活動を改善するための明確な方案を探し出す問

題、全般的な生産と供給のバランスをとり、人民経済計画の信頼度を高めるための問題など要の問題が言及された。

そして、世界が寸秒を争って新技術、新製品の開発競争を繰り広げている時代の要求に即して経済管理の改善に不必要な手順と制度を整理する問題、国家管理と経済活動で生産活動に歯止めをかけ、仕事の能率を低下させる要素をもれなく探し出して是正する問題、国家的に専門建設陣を拡大強化し、建設装備を近代化して重要建設を担当して行う方向へと進む問題、社会主義企業責任管理制を現実的に実施する活動に力を入れる問題をはじめ、全党的、全国家的に強力に推し進めるべき経済成長における要の問題に対する解決方向が示された。

また、金属、化学、電力、石炭、機械、建材、鉄道運輸、軽工業部門に山積している弊害と不振状態が全面的に分析され、経済活動で新たな前進をもたらすための科学的かつ実質的な対策が示された。

報告では、科学、教育、保健医療事業を改善する問題が言及された。

科学が経済発展を牽引する機関車であるなら、科学の母は教育であり、従って、現実発展と世界的趨勢に即して大学の構成と教育綱領を絶えず改善する問題、教育内容の実用化、総合化、現代化を実現する問題、中央と地方の教育水準の差

を減らす活動を実質的に推し進め、才能のある人材をより多く育成し価値のある科学技術成果をより多く収める問題が指摘された。

保健医療は人民がわれわれの制度の優越性を肌で感じる社会主義のイメージの主要徴表であるとし、社会主義保健医療が自分の本態を守り、保健医療部門の物質的・技術的土台を強固にし、すべての医療従事者に限りない人間愛と高い医療資質を備えさせる問題も提起された。

金正恩（キムジョンウン）総書記は総会を締めくくりながら、人民のために走りに走る、忠実で、勤勉な人民のしもべになろうと熱烈にアピールした。

2020年1月1日の朝、朝鮮のマスコミを通じて朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会に関する報道が一斉に発表されると、全朝鮮人民の全幅的な支持と嵐のような反響を呼び起こし、世界の主要メディアは先を争ってこのニュースを伝えた。

堅忍不抜の意志で

2020年初頭に新たに提示された革命的戦略である正面突破戦において主要攻略部門は経済部門であった。

それに基づき、経済活動で新たな前進をもたらすための具体的な計画と正しい方法論が現実的に立てられ、その貫徹のための実践的対策が講じられた。

その中でも順川（スンチョン）燐酸肥料工場の建設は国の化学工業を一段階飛躍させるための重要かつ優先的な対象であった。

毎年のように自然災害に見舞われても安定的かつ持続的な穀物収穫高を確保するためには、高濃度の燐安肥料を多量に生産する近代的で強固な生産土台を自力で築かなければならなかった。

2020年1月6日、金正恩総書記は順川燐酸肥料工場の建設現場に出向き、建設総計画と科学技術上の問題についての説明を受けた後、建設状況を把握した。

そして、すべての建設者と科学者、技術者、労働者が社会主義防衛の最前線である農業部門に共に責任を持つという熱い愛国心を抱いて、壮大な正面突破戦の先兵として力強く闘っていくであろうとの期待と確信を表明した。

総書記が順川燐酸肥料工場の建設現場を訪ねた後、工事を受け持った科学者や技術者、労働者は、国の化学工業の発展において膨大で困難な対象建設の課題を自分の力と技術によって解決し、工場の建設を完了した。

2020年5月1日、金正恩総書記は順川燐酸肥料工場の竣工式に参加し、テープカットを行った。

順川燐酸肥料工場の完工は、朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会後経済部門で収めた最初の成果であり、化学工業を一段と飛躍させる重要な契機となった。

正面突破戦を人民への滅私奉仕に一貫させようとする朝鮮

順川燐酸肥料工場

労働党の構想と決心に従い、党創立75周年を迎えて平壌市に近代的な総合病院が建設されるようになった。

2020年3月17日、首都平壌市の中心部の大同(テドン)江のほとりで平壌総合病院建設の着工式が行われた。

金正恩総書記が着工式に出席して演説を行った。

総書記は演説でまず、社会主義の発展の道で画期的でかつ活気に満ちた局面を必ず切り開くべき今年の困難かつ膨大な闘争課題の中でも、最も重要で最もやりがいのある闘争課題が提起されているとし、それは朝鮮労働党が長期間にわたり構想し、願ってきた近代的な総合病院の建設であると語った。

そして、党中央は、今年度に計画されていた多くの建設工事を延期し、平壌総合病院の建設工事を党創立75周年を迎えて完工しなければならない重要対象、正面突破戦の初年度である今年に行われる対象建設の中でも優先的な力を注ぐべき建設と規定し、その準備活動を各面から推し進めてきたと語った。

また、幾多の障害と厳しい難関を乗り越えて首都の中心部に建設される平壌総合病院は、敵対勢力の卑劣な制裁と封鎖を笑顔で粉砕し、よりよい明日に向かって力強く前進するわが祖国の気概と朝鮮革命の不屈の形勢をありのままに示す場

となるだろうとし、共に、わが人民のための今日の栄光と誇りに満ちた建設闘争で、自分の汗と情熱を惜しみなくささげて奮闘し、人民のための病院を、まさにこの場にこれ見よとばかりに、全世界が羨むように立派に建設しようというアピールで演説を締めくくった。

演説を終えた総書記は、平壌総合病院の着工を記念する鍬入れをし、自ら発破のボタンを押した。

黄海(ファンヘ)北道黄州(ファンジュ)郡光川(クァンチョン)里では、国の家禽業の発展に寄与する光川養鶏工場の建設工事が進められていた。

平壌総合病院の着工式が行われる

　2020年7月22日、金正恩総書記は光川養鶏工場の建設現場に出向いた。

　養鶏工場の建設工事状況を把握した総書記は、立ち退き世帯の住宅建設を先行させて、住民たちがいささかも不便な思いをしないように対策を立てた。

　2020年、朝鮮の科学者、技術者は、自立的科学発展観を確立し、血のにじむ探究を重ね情熱を発揮して、経済発展と人民生活の向上に寄与する少なからぬ成果を収めた。

　金策（キムチェク）製鉄連合企業所や黄海製鉄連合企業所をはじめとする金属工業部門では、チュチェ鉄の生産工程を科学技術的にさらに完備し、生産能力を高める事業の一環として、原料や燃料を予熱して装入することにより、酸素の消費を大幅に減らして多くの鉱石と石炭を節約しながらも、生産性を高めることのできる浮遊予熱法溶鉱炉の導入が成功裏に進められた。

　電力工業部門では、発電設備の元の性能を回復し、火力発電所と水力発電所の現在の発電能力を最大限に発揮させるための活動で成果を上げた。

　また、先進科学技術に依拠して水力発電所の現在の電力生産土台を整備、補強する活動も積極的に推進された。

　軽工業部門では、原料、資材の国産化と一般消費財の多種化、多様化、品質向上を基本課題として掲げて粘り強く努力した。

　採掘工業部門の各鉱山では耐火物の生産工程の近代化が加速化され、鉱物生産量増大の展望が開かれた。

　このように、自分の手で必ず自分の尊厳を守りぬき、繁栄を遂げようとする朝鮮人民の闘争は、正面突破戦の主要攻略部門である経済部門から活気を帯びて推し進められた。

2. 思いがけない挑戦

「COVID－19」の衝撃

先制的対応

「COVID－19」の衝撃

2020年は年初から人々の生命を脅かす新型コロナウイルスが世界を不安と恐怖に陥れた。

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症はたちまち世界中に伝播した。感染ルートが明確でなく伝播の速度が非常に早い悪性伝染病は、発病の原因も明確でなかった。

当初、人々は新型コロナウイルス感染症の危険性を認識することができず、サーズ（SARS）が伝染した時のようにある程度広がって終息するだろうし、ワクチンがすぐ開発されるだろうと考えた。

しかし、それは誤算だった。危険は解消するのではなく次第に増大し、刻一刻人々の生命を脅かした。

2019年12月に数十人にすぎなかった感染者の数が、20余日後の2020年の1月中旬には数千人に増えた。

にもかかわらず人々は気にもとめず、ふだんと変わらぬ生活を送った。そのうちに感染ウイルスは一国にとどまらず、全世界に広がった。

2020年1月30日、世界保健機関は世界的な保健非常事態を宣言し、2月には新型ウイルスを「COVID－19」と命名した。

しかし、非常事態宣布にもかかわらず、新型コロナウイルスの感染者の数は増える一方であった。

年初に数百人にすぎなかった感染者の数が6カ月後の7月に

各国での新型コロナウイルスの伝播状況

は1100万人を超えた。

暑くなれば勢いが衰えるだろうと考えていた人々の予想に反して、この伝染病はますます猛威をふるった。多くの国の早計に過ぎた非常防疫解除措置が取り返しのつかない不結果を招いたのである。

悪性ウイルスによって愛する肉親を失った人々の哭声が世界各地であがり、病院には最重症患者があふれた。

10月に世界的に感染者は4101万9310余人、死亡者は112万8800余人であったのが、11月には感染者は5592万1700余人、死亡者は134万2700余人に増えた。

再び冬が訪れると、悪性ウイルスによる被害は一層深刻化した。経済、文化をはじめ社会生活の各分野が悪性ウイルスにより莫大な損失をこうむった。

多くの人がこの時になってようやく悪性ウイルスの深刻さを悟って防疫活動に注意を向けはじめたが、時すでに遅しであった。

先制的対応

世界的な保健危機は正面突破戦に立ち上がった朝鮮人民の前途に大きな難関をつくり出し、こうした状況は適時的な対策を講じることを求めていた。

朝鮮労働党は、世界的な保健危機の状況から国家の安全と人民の安寧を守るために、即時的かつ断固たる決断を下した。

これに基づき、2020年の1月中旬から朝鮮の国境と海岸、領空は完全に封鎖された。

朝鮮のこうした措置に、世界で一部の人は遺憾だのどうのといって不満の色を隠さなかった。

実際、世界的にウイルスを抑制できる効果的なワクチンが開発されていない状態で国境を封鎖しないと、朝鮮で伝染病による被害は国と民族の前途につながる重大な問題になりかねない。悪性ウイルスが入り込む場合、国家と人民がこうむる損失は致命的なものになると言わざるを得ない。

一言で言って、目前の利益のために国家と人民の10年、100年を失う恐れがあった。それゆえ、全国家的かつ全人民的な思想の一致、行動の一致によって先制的かつ完璧な防疫障壁を構築するのは、朝鮮にとって唯一の選択だったのである。

非常防疫活動が力強く行われる

厳格な封鎖措置によって経済発展に支障をきたし、人民が生活上不便をこうむることが分かっていながら、国家と人民の安全のために朝鮮労働党と共和国政府は自国の人民を固く信じ、やむを得ず断固たる決断を下したのである。

一方、2020年に招集された数回の党中央委員会政治局会議では、国家の安全と人民の生命・安全を守るための非常防疫活動が優先的に討議され、適時的かつ完璧な防疫態勢を取るための課題と実行対策が講じられた。

各会議では、すべての公民に新型コロナウイルスに対する深刻な危機意識を植えつけるとともに、みなが気を引き締め、主人となって防疫活動に自発的に参加するようにさせることに重点を置いて討議が行われた。

また、すべての公民が防疫活動に高度の自覚を持つように教育することに全力を集中し、国内に徹底した防疫障壁と全人民的な防疫体系を確立し、人民生活を安定させるための対策が討議された。

2020年2月末に開かれた党中央委員会政治局拡大会議では、世界中に急速に伝播している悪性ウイルス伝染病を防止するための国家的な超特急防疫措置を徹底させ、厳格に実施する問題が討議された。

会議では、悪性ウイルスの流入と伝播を科学的に、先制的

に、かつ封鎖的に防ぐための対策問題が討議され、防疫体系内でいかなる特殊も許容せず、非常防疫活動に関連する中央指揮部の指揮と統制に国のすべての部門、すべての単位が絶対服従し、徹底的に実行する厳格な規律を確立し、法的監視を強化する問題が強調された。

また、既定の活動体系と秩序に従って、伝染病が入り込むルートとすきを完全に封じるとともに、検診、検査、検疫を強化し、防疫活動を綿密に行って人民の生命・安全をしっかり守るべきであると指摘した。

4月11日に開かれた党中央委員会政治局会議では、世界的な大流行伝染病の持続的な拡散傾向に対処して、ウイルスの流入を徹底的に遮断するための国家的な対策を引き続き厳格に実施する問題と、当面の内外の環境を踏まえて、党中央委員会第7期第5回総会の決定を貫徹するうえで一部の政策的課題を調整、変更するという対策問題が討議された。

会議では、世界的な大流行伝染病に対処して人民の生命・安全を守るための国家的対策を一層徹底させるという、朝鮮労働党中央委員会、朝鮮民主主義人民共和国国務委員会、朝鮮民主主義人民共和国内閣の共同決定書が採択された。

決定書には、国家的な非常防疫活動を引き続き強化するための課題と、2020年の経済建設と人民生活安定のための具体的な目標と各部門、各単位の闘争課題が提示された。

ところが、非常防疫戦が強力に展開されていたにもかかわらず、7月19日、開城（ケソン）市では致命的かつ破壊的な災難を招きうる危険が発生した。これに関連して7月25日、党中央委員会政治局非常拡大会議が緊急に招集された。

会議では、緊急事態に対処して当該地域に非常事態を宣し、国家非常防疫体系を最大非常体制へ移行し、特急警報を発令するという党中央委員会の決心が明らかにされた。

8月5日の朝鮮労働党中央委員会政務局会議では、国家最大非常体制の要求に応じて完全封鎖された開城市の防疫活動の状況と実態についての報告を聴取し、封鎖地域の人民の生活安定のために食糧と生活保障金を党中央が特別に支援する問題が討議、決定された。

8月13日に開かれた党中央委員会第7期第16回政治局会議では、全力を集中して水害の後遺症を早く癒し、人民に安定した生活を保障する問題と、世界的な保健危機に即して国家非常防疫体系を一層厳格に維持し、整然とした防疫活動指揮体系を確立する問題が再び討議された。

会議ではまた、国家が直面した世界的な保健危機に徹底的に対処するための防疫戦と予想しなかった自然災害の復旧という二つの挑戦について言及し、党と政府がこの二つ

の危機を同時に克服する正しい政策の方向を示し、立体的かつ攻勢的な闘争において洗練された指導力を発揮するよう強調した。

8月25日の党中央委員会第7期第17回政治局拡大会議では、世界的な保健危機に備えた国家非常防疫態勢を点検し、さらに強化する問題について深みのある討議が行われた。

会議ではまた、国家非常防疫活動に見られる欠陥について資料的に通報するとともに、防疫状態を引き続き補完、維持し、一連の欠陥を根絶するための積極的な対策を全党的、全社会的に強く講じるよう強調した。

11月15日に開かれた党中央委員会第7期第20回政治局拡大会議では、世界的な保健危機の一層の悪化に備えて国家非常防疫体系をさらに補強する問題が討議された。

会議では、世界的な悪性ウイルス伝播状況の深刻さと国家防疫の実態が詳細に分析、評価され、「80日間戦闘」の基本戦線である非常防疫戦線をさらに強化するための党的・軍事的・経済的課題とその遂行方途について言及した。

また、幹部が国家の安全と人民の生命に重責を担っていることを自覚して、超緊張状態を引き続き堅持し、完璧な封鎖障壁を構築し、非常防疫戦をより強力に展開するよう強調した。

防疫活動という同じ問題が2020年の年初からほとんどの政治局会議の主要議題として討議されたことは朝鮮労働党の75年史にいまだかつてなかった。

このように年初から年末まで、朝鮮労働党と共和国政府は国家の安全と人民の生命・安全を第一として、すべての活動の作戦を練り、それを貫徹した。

また、いかなる代価を払っても、国の大本であり財産である人民の生命・安全を守らなければならないという朝鮮労働党と共和国政府の確固たる決心に全人民が共感して立ち上がり、全人民的な防疫戦で互いに助け導き合う朝鮮人民の気高い美風が大いに発揮された。

3. 大難を克服した力

破壊的な自然災害

熱と情

人民の信頼を守りぬいた軍隊

破壊的な自然災害

2020年にも地球温暖化は世界的に大きな自然災害をもたらした。

地球温暖化によって朝鮮も続けざまに台風や水害に見舞われ、破壊的な災難をこうむった。

8月の末から9月の初めにかけて台風8号、9号、10号がたて続けに朝鮮の各地を襲い、全国的に多くの地域が洪水と津波、台風による被害に見舞われた。

8月だけでも、黄海北道の銀波(ウンパ)郡大青(テチョン)里と金川(クムチョン)郡江北(カンブク)里、江原(カンウォン)道金化(キムファ)郡など、黄海北道と江原道をはじめ中部内陸地帯の多くの地域が水害をこうむった。

8月の初め、黄海北道銀波郡大青里では洪水のため730余棟の家屋が浸水し、600余ヘクタールの田が冠水した。また、179棟の家屋が倒壊して多くの人が住宅を失った。

8月26日から27日にかけて、朝鮮の西海岸地方に上陸した台風8号が全国の各地方を襲った。

この台風8号は2019年9月に襲来した台風13号より強力なものであった。

台風8号のため黄海南・北道の多くの地域が大被害をこうむり、特に、収穫を間近に控えた農作物が冠水し、所期の作況を期待することができなくなった。

9月3日、今度は台風9号が襲来し、咸鏡(ハムギョン)北道会寧(ヘリョン)市や咸鏡南道検徳(コムドク)地区など、咸鏡南・北道の多くの地方が同時多発的に大被害を受けた。

暴雨と強風により1000余世帯の住宅が倒壊し、多くの公共施設が浸水し、田畑が冠水した。

海岸地帯では津波で防潮堤が破壊されたうえに、多くの住宅や公共施設、港が破壊された。

9月7日には、台風10号によって朝鮮の北部地区が被害をこうむった。

台風9号の傷跡が癒されていない状況の下で襲来した台風10号は、またもや大きな難関と試練をもたらした。

台風10号の影響により、9月7日と8日、東海岸地域に150mm以上、特に咸鏡北道、江原道の一部の地域と羅先(ラソン)市に暴雨を伴う300～400mmの大量の雨が降り、北部内陸、西海岸中部内陸の多くの地域に暴雨を伴う100mm以上の雨が降った。

また、7日から8日にかけて最大風速は35m/s以上、東海岸内陸地域と黄海南道、黄海北道、南浦(ナンポ)市、開城市での最大風速は25m/s以上となり、その他平壌市や平安(ピョンアン)南・北道と北部内陸の一部の地域では15m/s以上の強風が吹いた。

相次ぐひどい台風と洪水によって全国的に電力、金属、鉄道運輸、林業部門で堰堤、鉄道、鉄橋が破壊され、農業部門や国土環境保護部門、都市運営部門など人民経済の各部門で多くの田畑と橋梁、道路、灌漑用水路、構築物、河川が流失したり破壊された。

台風の被害を受けた一部の村

熱 と 情

2020年は朝鮮人民にとって試練と難関が折り重なった年であった。年初から世界を襲った予想外の保健危機状況も大きな難関であったが、同時多発的に相次ぐ自然災害は形容し難い難関であった。

しかし朝鮮人民は、厳しい試練の中でも熱と情をもって見守てくれる社会主義制度と、互いに助け導き合う温かい社会的風土があって、あらゆる試練と難関を克服することができた。

2020年8月6日、金正恩総書記は水害をこうむった黄海北道銀波郡大青里を視察した。総書記は、当時、大青里の被災民が心配になって、3、4日間に2度も現地を訪ねたのである。

まだ水がひいていない泥道を自ら乗用車を運転して現地に出向いた総書記は、被害状況を確かめ、事前に住民を安全な地帯に疎開して人命の被害はなかったという報告を受け、災害復旧と関連した具体的な課題と方途を示した。

総書記が帰った後、即時に水害被災民の生活を安定させるための措置が講じられた。

被災民のための食糧が先に現地に到着し、急派された人民軍部隊が住宅の建設を始めた。銀波郡の郡級機関では、郡党委員会や郡人民委員会などの事務機関や公共建物、個人住宅に家を失った住民を寝泊りさせ、慰めて生活を安定させた。

郡党委員会と郡級機関の庁舎が新しい布団やテレビ、扇風機などの家財道具が備わった部屋となった。郡の幹部たちは外にテントを張って事務を執った。そして、毎朝毎夕医師たちが訪ねてきては被災民の検診を行った。

これだけではなかった。台風が同時多発的に襲った時も人々を感動させる光景が繰り広げられた。

2020年8月末、台風8号が朝鮮西海岸に北上した時である。

金正恩総書記は、台風が進む経路に位置する黄海南道や道内各郡の責任幹部に10余回も電話をかけて、台風被害を最小化するための対策を立てるようにした。そして、人民の生命と安全を守ることに特に関心を払うよう強調した。

平壌市が台風8号の影響を受けていた時にも、総書記は、首都市民の安全を気づかい、自ら車を運転して風雨の激しい首都の街を走り回った。市民たちは年が暮れる時までもこの事実を知らなかった。

2020年9月5日、党中央委員会政治局拡大会議が被害地で招集された。

会議では、咸鏡南道と咸鏡北道の災害復旧問題が真摯に討議され、この地域に急派する建設集団の編制、設計、資材の輸送など、具体的な対策問題を研究して確定し、決定した。

この日、金正恩総書記は首都平壌の党員に公開書簡を送り、連続して来襲した台風9号のため、東海岸に位置している江原道と咸鏡南道、咸鏡北道が再び被害を受けたことについて言及し、一刻の猶予も許されないこの緊迫した状況下で、党中央は、咸鏡南・北道の災害復旧を強力に支援する問題をほかならぬ首都の党員たちに打ち明けることにしたとした。

総書記は、今年に入って世界的な保健危機が持続し、自然災害まで重なって特に困難に直面しているが、われわれは党と人民の団結した力をもってこれらすべてを果敢に克服しており、今年は緊張極まる厳しい闘争の中でより固い団結を成し遂げる闘争の年、前進の年、団結の年であるとした。

そして、10月10日が間近に迫っているのに、状況が困難で時間が足りないからといって、再び被害を受けた咸鏡南・北道の多くの人民が野外で祝日を迎えるようにするわけにはいかない、党の気づかいと配慮をもって、首都平壌の温かい情をもって、被災地域の人民を優しく慰め、一日も早く災害から復旧するように真心を尽くして支援し、奮闘することを党中央は首都の党員の皆さんに呼びかけるとした。

また、今は、わが人民の不便と苦痛を癒すための災害復旧が繰り広げられる現場がまさに、わが党が全力を注ぐべき最前線であるとし、党中央は、首都の優れた中核党員1万2000人で、咸鏡南道と咸鏡北道にそれぞれ緊急派遣する最精鋭首都党員師団を編制することを決心したとした。

総書記は、被災地域の人民に、禍を転じて福となす奇跡をもたらし、よりよい住宅、よりよい生活環境を保障しようとする党中央の真心をよく知らせて、彼らが確信と楽観に満ちて復旧作業を展開していくように誠心誠意支援すべきであるとした。

総書記は、一番気になるのは党員たちの健康である、党員たちが皆健康な体で戦闘を締めくくって首都平壌へ、恋しいわが家へ帰るべきであると切々と頼んだ。

総書記の公開書簡はすべての朝鮮人民に力と勇気を与えた。

9月6日の午前まで新しく編制される首都党員師団に志願した党員の数は数え切れないほどであった。首都の党員たちは自分の建設経験と技能の等級を誇り、先を争って志願した。

60歳を過ぎた老党員まで北辺戦域に送ってほしい、そこへ

行って炊事の手伝いでもしたいと、自分の所属している党組織を訪ねて我を張った。

首都の党員だけでなく、すべての平壌市民が即時に総書記のアピールに呼応した。そうして1日のうちに2個の強力な首都党員師団が編制された。

首都党員師団の戦闘員たちは金日成(キムイルソン)同志と金正日(キムジョンイル)同志が生前の姿のまま安置されている錦繍山(キムスサン)太陽宮殿の前で決起集会を開き、その足で被害現場に向かった。

被害現場に到着した首都党員師団の戦闘員たちは、自分たちの宿所より建設資材を運搬する道路を先に建設した。

復旧現場に到着して1、2日も経たないうちに、根切り工事と土量処理作業を終えた首都党員師団は、基礎コンクリート打ちに突入した。

首都党員師団の戦闘員と全国人民の献身的な努力によって、朝鮮労働党創立75周年以前に多くの被害地域で災害の痕跡が完全に取り除かれ、被災民の生活の場が立派に築かれた。

災害復旧戦闘は災害から復旧するための単なる建設過程ではなく、人々の思想観点と活動態度に根本的な変化をもたらす一つの変革過程であった。

人民の要求と利益を考慮に入れて住宅を元の家より立派に

建て、公共の建物や道路、橋梁、鉄道、堤防なども元のものよりも頑丈なものにして、災害復旧の過程が転禍為福（禍を転じて福となす）の過程となるようにした。

特にこの過程は、朝鮮特有の一心団結をさらに磐石のごとく打ち固め、それを示す契機となった。

このように、災害復旧戦闘は人民死守戦、人民の幸福の創造戦であり、党と人民の血縁的つながりを一層強固にした。

人民の信頼を守りぬいた軍隊

2020年は、朝鮮人民が自国の軍隊に対する信頼感をさらに深めた年であり、朝鮮労働党に対する人民の信頼感が人民軍によって守られた年であった。

人民軍は祖国をしっかり防衛するだけでなく、社会主義経済建設の重要な部門で奇跡と偉勲を立てている。

人民軍軍人は、1980年代と「苦難の行軍」、強行軍の時期であった1990年代にも数多くの記念碑的創造物を建てた。

ここ数年間にも、紋繡（ムンス）遊泳場と馬息嶺（マシンリョン）スキー場、衛星科学者住宅地区、美林（ミリム）乗馬クラブ、科学技術殿堂、未来（ミレ）科学者通り、黎明（リョミョン）通り、祖国解放戦争勝利記念館、咸鏡北道と羅先市の住宅など、新世紀の要求に即して建設された人民の憩いの場と建築物には人民軍軍人の献身の汗がこめられている。

人民軍軍人は、2020年の自然災害復旧戦でも人民の安寧のために自分の血と汗を惜しみなくささげた。

2020年8月の初め、黄海北道の銀波郡大青里と金川郡江北里の災害復旧に動員された人民軍軍人は、人民の軍隊としての崇高な使命を立派に果たした。

軍人建設者は、人民に些細な負担もかけず、自分の家を建

て、自分の父母兄弟を思う心で災害復旧で献身の汗を流した。

銀波郡大青里一帯の堤防補修工事に動員された人民軍軍人は、土入れポリ袋を担ぎ、荒れ狂う水中に飛び込んで仮締切り堰堤を築き、激しく降りしきる雨の中で破壊された道路や堤防を徹夜で復旧した。

3階建ての住宅の骨組み工事を3日間で完了して被災民を感動させた軍人たちもいた。

わずか30日間で仙境村に生まれ変わった黄海北道銀波郡大青里と金川郡江北里の現実は、自分の党への忠誠心と自国の人民への熱烈な愛をもっている人民軍の

黄海北道金川郡江北里での新居入り

思想精神的・道徳的品格を示した。

咸鏡南道の検徳地区と江原道の東海岸地区、咸鏡北道の被害地域の人民も、あれほど短い期間に甚だしい被害がすっかり癒され、立派な生活の場が築かれるとは想像だにできなかった。

人民軍軍人の献身的な努力によって、被害地域の人民は立派に建てられた住宅で朝鮮労働党創立75周年を意義深く迎えることができた。

人民は、被害復旧で奮闘した人民軍軍人の姿を見て、このような軍隊を育て上げた朝鮮労働党に感謝の挨拶をささげた。

人民軍軍人の献身的な闘争によって、短期間に災害復旧が基本的に完了し、水害被災民が生活用品まで備わっている近代的な住宅に踊りを踊りながら引っ越すという異彩な光景があちこちで展開された。

それゆえ、金正恩総書記は朝鮮労働党創立75周年慶祝閲兵式で行った演説で、祖国防衛、人民防衛、革命防衛が人民軍の当然な本来の任務であるとはいえ、われらの将兵はあまりにも多くの苦労をした、われらの将兵はあまりにも多くの仕事を受け持って多くの苦労をしている、それであまりにもすまなく、この栄光の夜に彼らと共におれないことに心が痛むとして、わが国家と人民に対する彼らの熱烈な忠孝心に最大の敬意をささげ、全軍の将兵にあつい感謝を送ると切々と述べた。

困難を極めた2020年に、朝鮮人民軍は朝鮮労働党の人民大衆第一主義の政治をしっかり防衛し、党に対する人民の信頼をあくまで守りぬいた。

朝鮮人民は、このような誇るべき人民の軍隊を育て上げた朝鮮労働党に対する限りない感謝と信頼の念を抱いて10月の祝日を慶祝した。

4. 輝かしい総括

威風堂々たる閲兵式

「80日間戦闘」

威風堂々たる閲兵式

2020年10月9日の夜、平壌の金日成広場は、朝鮮労働党創立75周年を慶祝するために集まった人で埋められていた。

2019年12月の末に開かれた朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会では、党創立75周年を盛大に記念する問題が討議された。それから284日間、6816時間が流れていた。

党創立75周年慶祝の夜に向けていかに多くの忍耐と努力がなされ、いかに多くの汗が流され、いかに多くの試練と困難を乗り越えてきたことか。

そうして集まった慶祝の場であるためか、人々の顔には勝利者の確信と感激の色があふれていた。

10月10日の午前零時を告げる鐘の音と歓迎マーチが響く中、金正恩総書記が広場の幹部壇に登壇した。

歓呼の声をあげる閲兵隊員と観衆に手を振ってこたえた金正恩総書記は、熱情のこもった演説を行った。

総書記まず、めでたい10月の祝日を迎えた全国の人民と人民軍の将兵、社会安全軍の将兵と労農赤衛軍、赤の青年近衛隊の隊員、党創立75周年慶祝代表と平壌市民、栄えある10月の祝日閲兵式に参加した閲兵部隊の指揮官と戦闘員を熱烈に祝った。

また、すべての人民軍将兵にあつい感謝を送った。

続けて、自分たちに与えられた災害復旧建設の任務を完遂したのに、愛するわが家がある平壌ではなく、進んでまた他の災害復旧地域に足を向けた愛国者たち、当然この席にいるべきわれわれの中核、私が一番信頼している首都党員師団の戦闘員にも戦闘的な激励と挨拶を送ると述べた。そして、自然による災難を振り払い、新しい村、新しい家にすみかを構えた世帯と全国の家庭に幸福と喜びだけが訪れることを祈り、全国の子供たちにいつも美しい夢がもたらされることを願った。

総書記は演説で、世界に、われわれのように自分の党の誕生日を全人民が喜びの祝日として、大慶事の日として盛大に祝う国はないだろうとして、わが党が歩んできた栄光に満ちた75年の歴史を一つ一つ振り返るこの瞬間、今日この席に立ったら何から話そうかとあれこれと考えてみたが、本当に人民に打ち明けたい心のうち、真情は「ありがとうございます」の一言に尽きると切々と述べた。

そして、何よりもまず、今日このように、皆が、全人民が無病息災であることを本当に有り難く思うとして、わが党にとって一人一人の人民の生命は何よりも貴重であり、全人民が健在で健康であってこそ、党もあり、国家もあり、この

地のあらゆるものがあるのだと述べた。続けて、わが人民は磐石のごとく踏みこたえて立ち上がり、党と国家が講じる措置を絶対的に支持して従い、自分たちの運命を頑強に守りぬいたばかりか、活気に満ちて厳しい苦難と試練を剛毅に乗り越えたとして、互いに相手のことを心配し、相手のためを思い、かばい合う心の美しい人民、このような人民が愛国心と強い自覚を持ち、互いに協力し合って暮らす社会主義でなかったなら、恐ろしい災難を防ぐことはできなかっただろうと述べた。

また、私は、全人民の信頼を得て、金日成同志と金正日同志の偉業を継承し、この国を導いていく重責を担っているが、まだ努力と誠意が足りず、わが人民は生活上の困難を脱することができずにいる、にもかかわらず、わが人民は常に私を信じ、私に絶対的な信頼を寄せており、私の選択と決心をすべて支持し、支えてくれているとして、私は、わが人民の大なる信頼を守る道で、たとえ全身が引き裂かれ、粉々になろうとも、その信頼だけは命をささげてでも無条件に守り、その信頼にあくまで忠実であることを今一度この場を借りて厳かに確言すると述べた。

続けて、もし力がなければ、拳を固めても流れる涙と血を拭うしかないだろう、わが党は、強力な軍事力によって国の

主権と領土の確固たる安全を保障し、国家と人民の永遠なる安寧と平和、未来を守っていくだろうと強調した。

総書記は、時間はわれわれの側にある、共に社会主義の輝かしい未来に向けて、新たな勝利を得るために力強く前進しようと熱烈に呼びかけ、全人民が無病息災であってくれたことに対して今一度感謝の挨拶をささげ、変わることなくわが党に信頼を寄せてくれる真情に心から謝意をささげると述べた。

総書記の演説は「偉大なわが人民万歳！」のスローガンで締めくくられた。

『愛国歌』が奏される中、国旗が掲揚され、閲兵式が挙行された。

朝鮮労働党創立75周年慶祝閲兵式は、共和国の武力の質的発展を示した閲兵式であり、共和国武力の閲兵式の歴史に新しいページを開いた特大型の閲兵式であった。

最初から最後まで高度に現代化、芸術化された閲兵式は軍事芸術の新境地を切り開いた。

音楽と閲兵式の新しい組み合わせがなされ、それぞれの軍種、兵種の特性を際立たせる伴奏は軽快で迫力があり、時には荘重でもあった。

そして、閲兵隊員が着用した軍服と戦闘装具類は、現代戦

10.10.
백두의혁명정신

と朝鮮の自然地理的特性、朝鮮人の体質的特性に即して開発した朝鮮式の特性が際立った装備品であった。

また、飛行縦隊の夜間飛行術といろいろな花火と夜間照明の組み合わせは、朝鮮式閲兵式の新たな特性と行事時間の選択における独特な魅力を見せるものであった。

閲兵式が終わると、総書記は歓呼する観衆にまた手を振ってこたえた。

総書記の演説から始まり、2時間近くにわたって行われた閲兵式は、社会主義朝鮮がどの道を進もうとしており、それをいかに保証していくかを世界に厳かに宣言した閲兵式であった。

「80日間戦闘」

2020年10月5日、朝鮮労働党中央委員会第7期第19回政治局会議が開かれた。

会議では、全党、全国、全人民が「80日間戦闘」を力強く繰り広げて第8回党大会を輝かしい成果をもって迎える問題が討議された。

朝鮮労働党の新たな道程において画期的な意義を持つ重大な政治的出来事となる第8回党大会までには80余日を残していた。

朝鮮人民には、手間をかけて準備してきた党創立75周年慶祝行事を盛大に行い、2021年初頭に招集される第8回党大会を誇るべき闘争の成果をもって迎えるべき重大にして責任ある課題が提起されていた。

また、まだ内外の軽視できない多くの挑戦と困難が横たわっており、年内に達成しなければならない目標が少なからず残っていた。

朝鮮人民は、2020年に比類なく厳しい試練と難関を果敢に正面突破して成し遂げた貴重な歴史的功績を打ち固めるためにも、成果に酔い痴れて気を緩めているわけにはいかなかった。

会議では、「80日間戦闘」の主たる目的と戦闘期間に堅持すべき主な原則、この期間に遂行すべき部門別目標などが提示された。

「80日間戦闘」においても、主要攻略部門は祖国と人民の安全を守る非常防疫戦線であった。防疫形勢を鉄桶のごとく堅持するのが「80日間戦闘」の主たる目標であった。

また、大規模な災害復旧戦闘を完了し、一年の農作を立派に締めくくり、計画されている国家的な重点対象建設を強力に推進するとともに、国家経済発展5カ年戦略計画を遂行するための闘争を最大限に促進しなければならなかった。

2020年の残りの80日間を立派に締めくくるという朝鮮労働党の呼びかけにこたえて、朝鮮人民は勇躍立ち上がった。

戦闘が開始された初期に、鉄道運輸部門の労働者と科学者、技術者は先端技術が導入された6軸交流電気機関車を自力で開発し、平壌火力発電連合企業所の労働者は電力の日産計画を1.3倍以上超過遂行した。

また、紡織工業部門では1000余名が年間計画を完遂し、「80日間戦闘」に立ち上がった人民に力と勇気を与えた。

もちろん、朝鮮人民の抱負に比べると、そのような成果はさほど大きなものではなかったが、不利な状況の下で収めた成果は、原料と資材の国産化、再資源化を実現し、内的原動力を増大させる貴重な元手であった。

2021年1月1日、朝鮮中央通信は「80日間戦闘」に関する詳報を発表した。それによると、金策製鉄連合企業所、黄海製鉄連合企業所、チョンリマ製鋼連合企業所をはじめ金属工業部門の多くの単位が鋼鉄、銑鉄、圧延鋼材、鉄鉱石などの主要な指標計画を繰り上げて完遂した。

また、化学工業部門の多くの単位が生産能力拡張工事を完了し、農業部門では天候が不順であったにもかかわらず、全国的に百数十の農場が多収穫農場となった。

電力工業部門では電力工業省の戦闘計画を106.4%遂行し、石炭工業部門では戦闘目標の遂行率を102%に引き上げ、鉄道運輸部門では貨物輸送計画を105%遂行した。

採掘工業部門の多くの単位が戦闘課題を完遂し、林業部門で40余の単位が戦闘計画を完遂した。

平安北道干拓地建設総合企業所と黄海南道干拓地建設総合企業所の労働者は、あらゆるものが不足している困難な状況のもとでも、洪建島（ホンゴンド）干拓地の2段階の建設と龍媒島（リョンメド）干拓地の3、4区域の建設を完了して、一つの郡の耕地面積に匹敵する新しい土地を得るという偉勲を立てた。

また、金野江（クムヤ）2号発電所をはじめ多くの発電所が完成して操業を開始し、平壌電子医療機器工場、恩情（ウンジョン）茶飲料工場、

平壌民族楽器工場など数多くの工場や文化施設・建築物が時代の創造物として建設された。そのほかにも、全国的に7900余件の技術革新が創案されて人民経済の科学化を促進した。

　このように、朝鮮人民は厳しい試練に満ちた2020年を「80日間戦闘」で立派に飾り、社会主義建設において新たな高揚期、激変期を切り開くうえで偉大な転機となる朝鮮労働党第8回大会が開催される2021年を迎えた。

　朝鮮人民の前途には依然として並大抵でない挑戦が横たわっている。しかし、朝鮮人民は、自分の理想と夢が実現される繁栄の時代をたぐり寄せるため不断の努力を傾け、力強く闘うであろう。

試練と闘争の2020年

執　筆：李英玉
編　集：尹英日、朴成日
翻　訳：徐正次
発　行：朝鮮民主主義人民共和国
　　　　外国文出版社
発行日：チュチェ110(2021)年11月

E-mail：flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp

ISBN 978-9946-0-2009-9

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ110(2021)